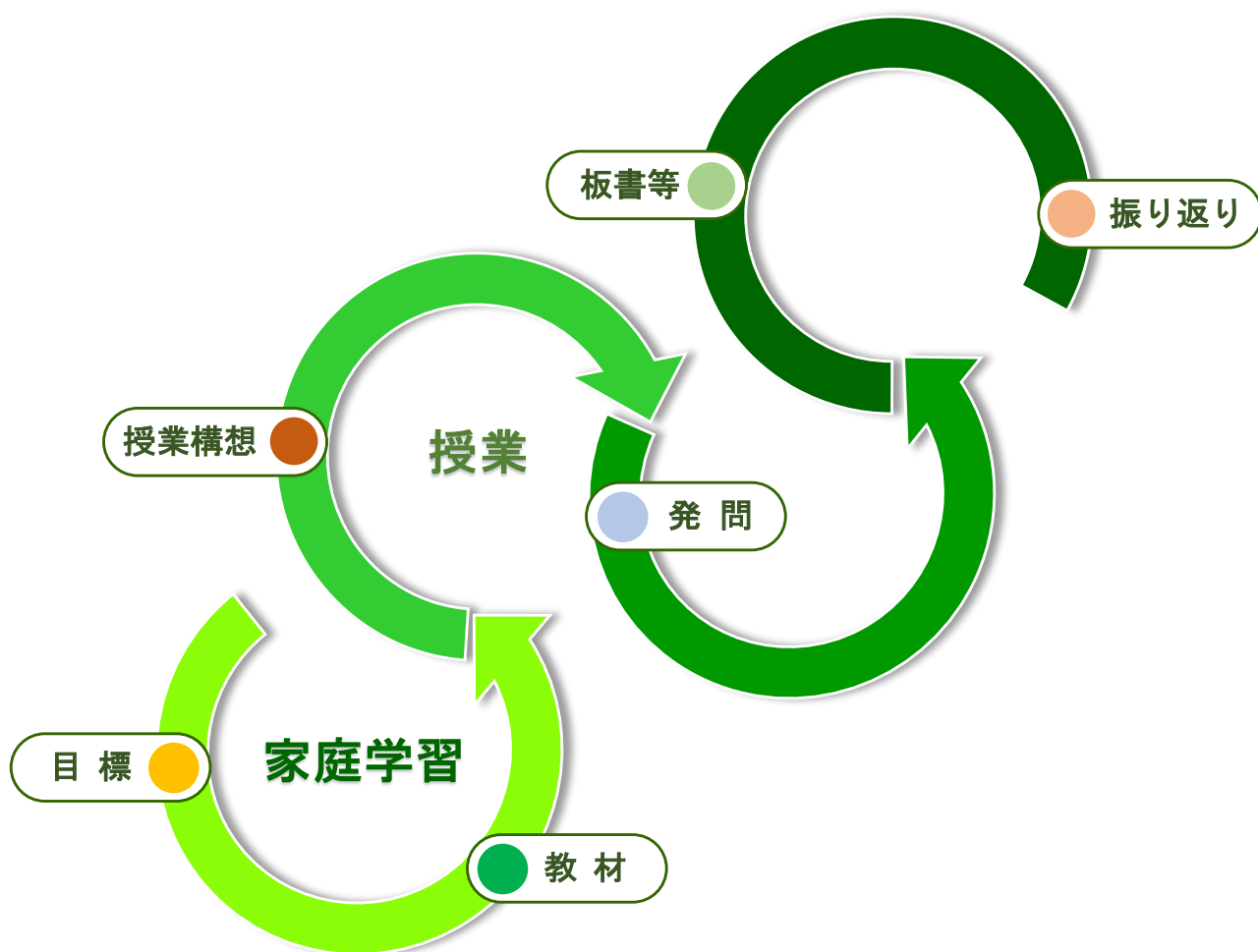


2020からの 新しい授業づくり ハンドブック



- 1 2020年からの授業づくりに向けて
- 2 授業と家庭学習との効果的な連動の考え方
- 3 6つのアクションを踏まえた学習展開例
- 4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の工夫

1. 2020年からの授業づくりに向けて

今後の学校教育活動を行う上で、自然災害や感染症の発生など不測の事態にいかに対応できるかが重要になってきます。特に学習指導においては、これまで以上に、時間を有効に活用して学習活動を工夫し、育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることが必要であり、課題は以下のように整理されます。

課題

- 1 限られた時間を効果的に使う学習指導の工夫
- 2 制約等を乗り越えての主体的・対話的で深い学びの実践

これまでの授業改善の取組により、本県の教師の授業力は確実に高まっており、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢にも伸びが見られます。上記の課題を解決するためには、これまでの取組と、県立高等学校授業改善実施要領で定める「6つのアクション」を基に、組織的に授業改善を推進することが必要です。

授業と家庭学習を効果的に連動させ、生徒が自ら学ぶための仕掛けをデザインする

方向

「家庭ですべきこと」と
「授業だからできること」を
分類して、**連動**させる！



2. 授業と家庭学習との効果的な連動の考え方 ～今こそ6つのアクション～

家庭学習と授業を効果的に連動させるために、その着眼点について3つ示します。

着眼点1 単元計画による学習活動の連動

単元を見通し、どの部分を家庭学習で行わせるかをマネジメント

例1) 授業1時間の活動を全て家庭学習に移行して実施する方法

授業		家庭学習
1時間目	知識を習得（教師説明等）	
2時間目	知識を活用（演習等）	
3時間目	考えを深める	

→

授業		家庭学習
		知識を習得 例) 教科書や動画視聴で学習
1時間目	知識を活用（演習等）	
2時間目	考えを深める	

例2) 授業の一部の活動を家庭学習に移行して実施する方法

授業		家庭学習
1時間目	(i) 知識を習得 (ii) 知識を活用 (iii) 知識をまとめる	
2時間目	(iv) 課題について個人で考える (v) 班で話し合いまとめる	
3時間目	(vi) 班の意見を発表する (vii) 振り返って深める	

→

授業		家庭学習
1時間目	(ii) 知識を活用 (iii) 知識をまとめる	(i) 知識を習得
2時間目	(v) 班で話し合いまとめる (vi) 班の意見を発表する	(iv) 課題について個人で考える
		(vii) 振り返って深める

着眼点2 6つのアクションによる学びの連動

着眼点1の連動を進める上で手がかりとなるのが、6つのアクションです。6つのアクションを授業場面だけでなく、生徒の家庭学習の場面も想定しながら学習活動の全体に対して効果的な方策として捉えることが大切です。



着眼点3 主体的・対話的で深い学びの視点での連動

これからの社会を生きる力を育成する上で、主体的・対話的で深い学びが必要不可欠です。6つのアクションを基に、授業と家庭学習を連動させることで、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、工夫が必要です。

分類	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
家庭学習 (予習)	○予習(見通し) ●目標 ・目標を見据え、授業で活用するための基礎的・基本的な知識の習得や疑問の整理	○多様な他者との対話 ●発問 ・教科書、資料集、論文等をじっくり読み、疑問点の発見や仮説を構築	○予習(深い捉え) ●目標 ・疑問の解決に向けた既習事項の整理、情報の収集、整理・分析等
授業	○目標の確認 ●目標 ・単元の目標(付けたい力)を意識して本時の目標確認 ○学習課題の確認 ●発問 ・学習課題と自己との関わりについて考えながら学習	○教師との対話 ●授業構想 ・精選した問いで、教師と生徒との対話を中心に学習 ○生徒同士の対話 ●板書等 ・ICT等の活用で、班での意見交流や電子黒板への意見投影による全体交流や議論	○思考の深化 ●発問 ・どのような視点 ●教材 で捉え、どのように思考するか、各教科ならではの見方・考え方を働かせた学習 ・家庭学習をベースに概念形成に向かう言語活動を工夫
家庭学習 (復習)	○振り返り ●振り返り ・授業内容を自発的に復習 ・できるようになったこと、わかったことや疑問点をまとめたり、演習を実施	○ICT活用の復習 ●振り返り ・授業中の対話等の電子記録等に基づく復習 ○ICT活用の対話 ●発問 ・疑問等を教師へICTで送信	○復習(深化) ●振り返り ・学習した内容を自ら次の学習に繋げることを意識 ・獲得した概念等を生かして日常生活の問題発見や解決

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、相互に関連しながら一体的に実現されるよう、留意する必要があります。

3. 6つのアクションを踏まえた学習展開例

● 目標 ●
● 振り返り ●

① 電子ポートフォリオで履歴を残す ～家庭学習の評価～

- ✓ 目標の提示や目標に向かう予習課題により、見通しを持った家庭学習を促す
- ✓ 目標と連動した復習課題・ループリックにより、家庭学習で身に付けた力の振り返りを行わせる
- ✓ 家庭学習 → 授業 → ……の流れを電子版ポートフォリオに記録して生徒の学習改善の支援に活用する

○単元のまとめりにおける学習展開の例（国語）

授業 (単元の予告)	<p>1. 単元の目標と学習課題の提示 ● 目標</p> <p>○身に付けさせたい資質・能力に真にふさわしい教材と学習課題を精選して提示 ● 教材</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目標 : 『水の東西』を読んで文章の構成を的確に捉え筆者の主張を読み取る」 (例) 学習課題: 「なぜ『鹿おどし』は日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けといえるのか、説明しよう」</p> </div> <p style="text-align: right;">● 目標</p>
	<p>2. 予習課題の提示</p> <p>○1に基づいた「予習課題」を与える</p>
家庭学習	<p>3. 予習課題の学習 ● 目標</p> <p>○生徒は、目標を確認して予習課題に取り組み、学習の過程を振り返る ● 振り返り</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 予習課題: 本文の構成を分析し、「文章構成図を作成」する</p> </div>
	<p>4. 単元の目標と学習課題の確認 ● 目標</p> <p>5. 生徒同士の対話的な学びを重視して展開 ● 授業構想</p> <p>○予習課題での学習を活用し学習効果を高めることができるよう工夫する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 予習課題で作成した「文章構成図」について意見交換を行い、本文の構成の特徴について発表を行う</p> </div>
授業 (単元の展開例)	<p>6. 学習の振り返り ● 振り返り</p> <p>7. 復習課題の提示</p> <p>○「復習課題」とそれに関する「ループリック」を提示し、家庭で自己添削させる</p> <p>○必要に応じて教員による添削や、授業内での解説等を行う</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・FormsやGoogleフォーム等を活用することで事前に生徒の解答等を把握することができる</p> </div>
	<p>8. 復習課題の学習</p> <p>○「予習→授業→復習」のサイクルによる学習の成果をポートフォリオに記録させる</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・OneNote等を使用した電子版ポートフォリオに、目標を明示することで、単元を見通した学習が可能</p> <p>・教師のスライド資料や班協議の記録等をOneNoteに集約することで、効果的に振り返りを行わせることが可能</p> </div>
家庭学習	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 復習課題 「論の展開を意識して、比較文化論を書く」</p> <p>ループリック A: 日本文化の特徴を他と比較して、効果的な具体例を用いて説明ができています</p> <p>B: 日本文化の特徴を他と比較して、具体例を用いて説明ができています</p> <p>C: 日本文化の特徴を他と比較して説明ができていない</p> </div> <p style="text-align: right;">● 振り返り</p>

家庭学習と授業が繋がったポートフォリオ

② 授業か家庭学習か見極める

～各学習活動の適性の判断～

授業構想

- ✓ 日頃の指導のうち、「**授業で行うことが効果的なこと**」と「**家庭でもできること**」を分類する
- ✓ 学校で実施する内容と家庭で実施する内容を**効果的に組み合わせる授業構想**を考える

○ 授業1時間における学習展開の例（地歴歴史・公民）

	全活動を学校の授業で行う展開例	家庭学習に移行する場合の方法
導入	1. 授業構想に基づいた資料等の提示 ● 授業構想 ○見通しを持った 授業構想 に基づき、本時の内容への興味・関心を引く資料を提示	<div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; text-align: center;">特に家庭での実施が可能</div> ○事前に見てほしい資料やwebサイトのURLをSharePointやTeamsに掲載
	2. 本時の目標を踏まえた授業展開 ● 目標 ○本時の 目標 、学習課題（主たる発問やMQ）を提示 ○授業プリント等の 教材 を配布し、教科書や資料集を使い、学習内容を教師が説明 ● 教材 ○生徒は 板書 の内容をノートに記入したり、説明のメモをとったりする ● 板書等 ○適宜 発問 しながら、生徒に思考を促す ● 発問 ○必要に応じてグループでの対話を実施 ○白地図作業や人物調べ、年表の作成など、効果的な作業を適宜実施 ○学習課題に対して、考えたことや話し合ったことを発表する	○授業プリントをSharePointやTeamsで送付（発問や語句整理欄、地図・統計等を掲載） ○各自で教科書等を読みながら、授業プリントに記入し、後日提出 ※内容理解が難しい場合は、NHK高校講座等を参考に学習を進める ○授業プリントに発問を記載 ○zoom等の対話やTeams等のチャットによるコミュニケーション ○授業プリントやレポート用紙に記入し提出 ○授業プリントやレポート用紙に記入し提出
展開		
まとめ	3. 本時の目標を踏まえた振り返り ● 振り返り ○生徒の発表への評価を行い、学習の 振り返り を促す ※必要に応じ、新たな問いを投げかけ、家庭での復習や自主的な学習につなげる	○提出された授業プリントやレポート用紙へ評価やコメントを記入し、返却 ○学習の振り返り欄を設け、質問等を記入できるようにしておく
	まとめ	
授業後	4. 学習内容の定着状況の把握・評価 ○履修内容を復習・定着させる ○定期考査やレポート提出、単元のまとめテストにより、履修内容の評価を行う	<div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; text-align: center;">特に家庭での実施が可能</div> ○履修内容の復習方法を具体的に指示 ○テスト形式以外は、家庭でレポート等の作成によりポートフォリオ評価を行う
	授業後	

- ✓ 単元全体を見通して、目標に応じたヤマ場を適切に配置する
- ✓ 多様な考えの共有や活発な議論により解を見いだす深い学びを授業で実現するために、家庭学習における予習を充実させる

○家庭学習と授業における学習展開の例（数学）

家庭学習	予習	<p>1. 家庭での予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体性を育むため、生徒の興味・関心を高めるための予習 ○易しい内容や用語に関する内容（集合等）を中心とした予習 ○発展的・統合的な学習課題を扱う授業に生かすことのできる予習 	<p>● 目標</p> <p>● 教材</p>	
学校での授業	導入	<p>2. 前時の振り返りや家庭学習を踏まえた導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して前時の板書、生徒の予習ノート等の記録を投影 ○予習させてきた内容の疑問や曖昧な内容を解決 	<p>予習を生かした授業</p>	
	展開	<p>3. 本時の目標を明確に提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必ず目標を板書し生徒と目標を共有（示すタイミングは冒頭でなくても可） 		<p>● 授業構想</p>
		<p>4. 精選された学習課題の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのような見方や考え方を働かせるか、学習課題の価値や発展性を考えて提示 ○生徒の習熟に応じて教員が学習課題を与えるのではなく、家庭学習や集団検討から生まれる生徒の問いを学習課題とするように工夫 ○教科書の例題から統合的・発展的な内容につなげる工夫が必要 		
		<p>5. 個人検討の時間確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が十分な時間をかけて検討することで集団検討を充実させる効果大 ○思考の跡が残るよう指示（困りや疑問もノートに書き記すと教員も指導しやすい） ○机間指導しながら、多様な見方や考え方はもちろん、議論の対象となるような躓きや誤答例をピックアップ 		
		<p>6. 集団検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して、生徒のノートの記録を映し出すと効率的 ○ICT機器と板書（ポイントのみ）との併用により、比較・検討や振り返りが容易 		
	振り返り	<p>7. 家庭学習や次時に繋げる振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次の観点で振り返らせることで家庭学習や次時の学習につながる（2～3項目が目安） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことが新たに分かったか？できるようになったか？ → 知識・技能の確認 ・最も大切に思ったことは何か？なぜ、そう思ったか？ → 教員と生徒の価値観のずれ ・分からなかったこと、疑問点、課題点は？ → 生徒は家庭学習へ、教員はフィードバック ・今までの学習との関連？この学習を終えて次に考えること？どんなことを学びたいか？ → 「統合的・発展的に思考する力」 → 家庭学習・次時への繋がり </div>	<p>● 振り返り</p>	
家庭学習	復習	<p>8. 練習問題を解く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技能を高めながらも、数学的な考えの深まりや広がりのある問題などを入れること <ul style="list-style-type: none"> ・$y=2(x-1)(x-3)$を入れることで、グラフの対称性など新たな発見 ・分散の問題に平均値が分数になる値を入れることで、データの2乗の平均から平均の2乗を引く授業への展開 ・教科書の練習問題≠毎日課題≠休日課題とならないように内容の精選とそれぞれに意味を持たせることが重要 ・定着状況については章末や単元での確認 	<p>● 目標</p> <p>● 教材</p> <p>● 振り返り</p>	

④ 授業と家庭学習を繋いで探究する ～探究のコーディネート～

発問

✓ 何ができるようになるか

授業毎に**目標**（付きたい資質・能力）を整理し、適切な**学習課題**（主たる問い）を考える

✓ 何を学ぶか

教科の**見方・考え方**を働かせ、**問題発見・解決的**な学習過程を通して、内容を学ぶ

✓ どのように学ぶか

探究する力を育成するため、授業と**家庭学習**で**すべきこと**を、単元を見通しコーディネートする

○単元全体で探究する学習展開の例（理科）

	何ができるようになるか 何を学ぶか		どのように学ぶか		
	内容と目標の例 ● 目標	学習課題の例 ● 発問	家庭学習（予習） ● 教材	授業 ● 授業構想	家庭学習（復習） ● 振り返り
1 時間目	・音の要素 ●音の3要素や、その関係性を理解する	●音はどのように発生しているのだろう？ ●音の要素は？	〔知識習得〕 ○NHK講座「音」視聴 ○教科書等をもとに、ノートに知識を整理	授業で扱わない	〔知識理解〕 ○Formsで確認テスト実施 ○教師が生徒の状況を把握し、個別の支援を検討
2 時間目	・弦の振動 ●基本音と倍音の関係性等を見いだす	●ギターの高さはどのようにして決まるの？ ●振動の規則は？	〔既習内容確認〕 ○中学校「発音体の振動」で学んだことの確認 ○これから学ぶ内容に対する疑問点のまとめ	〔疑問点等の交流〕 ○家庭学習の内容確認 〔目標、課題確認〕 〔課題解決の過程〕 ○予め個人で考える ○生徒同士の議論、教師の演示実験、効果的な発問等で思考の深化 〔全体共有・課題解決〕	〔復習〕 ○以下をまとめる ・わかったこと ・疑問に思ったこと ・もっと知りたいこと
3 時間目	・閉管の共鳴 ●観察を行い、閉管の振動の規則性を見いだす	●リウダーを指で塞ぐとなぜ音の高さが変わるの？ ●振動の規則は？	〔日常生活との関連〕 ○弦楽器、管楽器の例を調べまとめる	○予め個人で考える ○生徒同士の議論、教師の演示実験、効果的な発問等で思考の深化 〔全体共有・課題解決〕	〔演習〕 ○授業で獲得した概念を活用して問題を解く
4 時間目	・閉管の共鳴 ●実験を行い、閉管の共鳴と音源の振動数とを関連付けて、規則性を見いだす ●検証計画を立案する力を付ける	●クラリネットはなぜ1オクターブ高い音が出にくいのか？ ●振動の規則は？	〔自然現象への気付き〕 ○クラリネット倍音の不思議さ 〔課題の設定〕 ○閉管振動の規則性調べ 〔仮説・検証計画立案〕 ○仮説、実験計画について自己の考えをまとめる	〔検証計画立案〕 ○考えてきた計画を班で互いに交流し立案 〔実験〕〔結果の処理〕 〔考察・推論〕 ○動画撮影、計測・処理等でICTを効果的活用	〔考察・推論〕 ○仮説の妥当性の検証や考察（実験動画の振り返り等） 〔表現・伝達〕 ○考察・推論したことや結論をレポートにまとめ、Forms等で教師へ提出
5 時間目	・共振とうなり ●共振とうなりの原理を身近な現象と関連付けて理解する	●なぜタコマナローズ橋は20m/s程の風で崩壊したのか？ ●発生原理は？	〔問を考える〕 ○タコマ橋崩壊の原因について、1～4時間の内容を関連付けて考える ○考えをFormsで送信	〔目標、課題確認〕 〔課題の過程〕 ○家で考えてきたことを出し合い班等で議論 〔全体共有・課題解決〕	〔復習〕 ○単元全体の振り返り実施・レポートや演習等 〔新たな課題設定〕 ○自らの疑問を解決する

※ **学習評価**〈何が身に付いたか〉についても、この単元計画に一体的に組み込む必要があります（指導と評価の一体化）

○探究的な学びを実現する工夫

✓ 主体的な学び

「学習課題」を生徒から引き出す工夫 ⇨ 例：現象を観察させて、**疑問**に思うことを挙げさせる

✓ 対話的な学び

必然性のある対話的な活動の工夫 ⇨ 例：学校で対話したくなるよう、**家で熟考させる**

✓ 深い学び

身に付けた力を**次に生かす学び方**の工夫 ⇨ 例：**日常生活**や**他で学んだこと**との関連を考えさせる

⑤ 言語活動をICTで記録する


～学習履歴の可視化～

● 板書等 ●

(ICT)

- ✓ 授業と家庭学習を連動させ、帯活動のアウトプットにつなげる (展開①)
- ✓ グループで協働して、授業と関連したサイトを調べて、内容をまとめ、発表する (展開②)
- ✓ 自ら問いを作り、グループで議論を重ね、自分の考えをまとめる (展開③)

○コミュニケーションにICTを活用した学習展開の例 (英語)

	展開①	展開②	展開③
授業	● 目標 ○AIの問題点について書かれた英文を読み内容を理解する		
家庭学習	①学習した部分を音読練習する (動画視聴) ②「問題点を解決する方法」の自分の意見をまとめる ③問題点と解決方法を合わせたリテリングの練習をする (*表やグラフの表現を学んだ際は、表やグラフ、画像を加えた練習をさせる)	● 教材 ○指定された世界もしくは世界のエコツアーのサイトを調べて、その特徴についてまとめる 	● 発問 ①「Political Correctness」に関する英文を読み「他者とのよりよい付き合い方」について考える ②英文の事実を問うQ-A活動、文構造・文法などの学習を行う (動画視聴) ③他者の経験や意見を引き出す open-endedな「評価発問」を自分で作成する
授業	● 板書等 グループ内でリテリングを行う (動画撮影) さらに一步!! [授業] 「質の高い教育をみんなに」というテーマに関連した取組を紹介した動画をグループ毎に紹介する	①グループ内で読みが難しかった箇所などを解決し、サイトの内容について理解する ②本文の流れを参考にして、サイトの発表原稿とプレゼン資料を作成する	①One noteで班内で指定された問いに対する答えを書く ②順番に交換し、それぞれの意見に対する質問や意見を加える ③それぞれの質問や意見に答えながら、自分の考えをまとめる ④パラグラフ、エッセイの論理的な書き方を勉強する
家庭学習	[家庭学習] 理解を促す補充プリントを参考に、指定された動画を視聴する	● 教材 ①プレゼンの仕方を示した動画を視聴しプレゼン発表の仕方に触れる ②①で学んだことを参考にして、自分の発表練習をする	● 授業構想 ○①授業での活動を踏まえて、他者とのよりよい付き合い方についてパラグラフ、エッセイを書きあげる
授業	[授業] 班内で視聴した動画をまとめ、他班に紹介する [振り返り] 達成するための共通の取組をまとめ、提出する。 [評価] 作品をポートフォリオ保存	● 板書等 ①異なるグループでそれぞれの端末を用いてプレゼン発表を行う ②Q-A活動を通して、発表内容で補う部分を自分のグループで共有し、再構成する ③再構成した内容を踏まえて、プレゼン発表する (動画撮影)	● 板書等 ①生徒同士で、それぞれの作品が論理的な構造になっているかを確認し、フィードバックを与える ②生徒同士で、句読法、つづり、語彙、文法に誤りがないかを確認し、フィードバックを与える ③書き直した作品を提出する
振り返り・評価等	● 振り返り [振り返り] Formsのアンケートを用いて、自分の到達度を把握する [評価] 動画データをポートフォリオに保存する	[振り返り] Formsのアンケートを用いて、自分の到達度を把握する [評価] プレゼン資料を提出させ、動画(音声データ)の両方で評価する	[家庭学習] ライティングで指摘された語彙と文法について、使い方やポイントを自分でレポートにまとめ、提出 [振り返り] Formsのアンケートを用いて、自分の到達度を把握する [評価] 作品を評価する

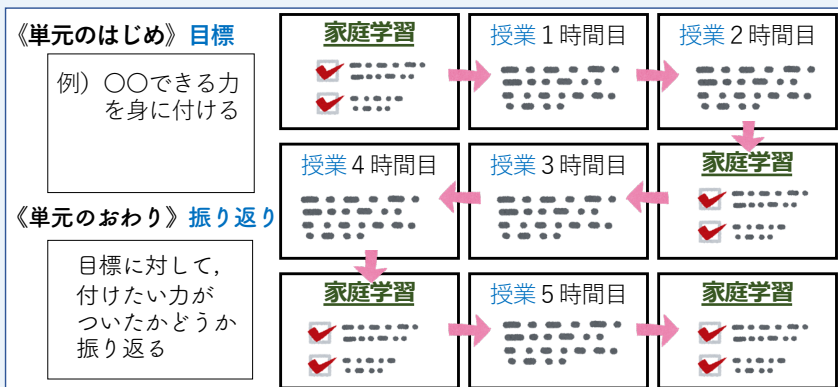
4. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた ICT 活用の工夫

① 「主体的な学び」における活用

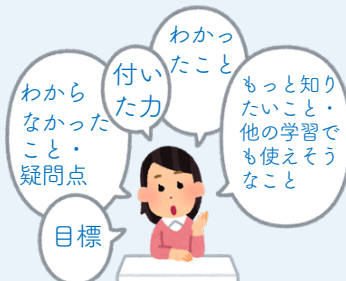
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返りかえって次につなげる学び

例) 「電子版 単元ポートフォリオ」で家庭学習を振り返る

- 単元を見通して、家庭学習と授業の学びを記録し、目標の確認と振り返りに活用
- 単元開始前後で変容等を可視化
- 電子版なので、いつでもどこでも振り返り可能



記録する内容は？



授業でも家庭学習でも目標と振り返りを意識！

② 「対話的な学び」における活用

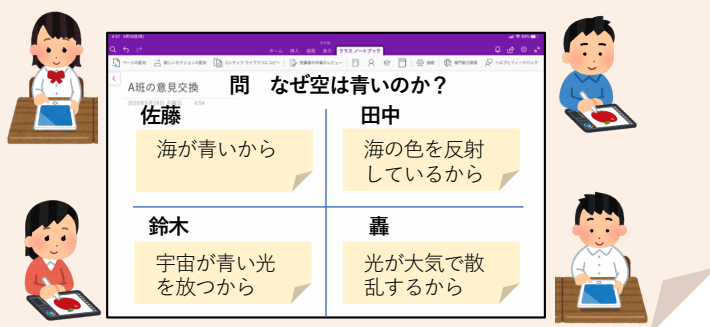
- 生徒同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考え，自己の考えを広げ深める学び
- あらかじめ個人で考えたことを，意見交換や議論することで新たな考えに気がついたり，自分の考えをより妥当なものとしたりする学び

例1) ICTを利用して、家庭学習での生徒の考えを提示する

- あらかじめ生徒に学習課題や問いを提示し，生徒は家庭で考えをまとめ，ICTにより提出 (Forms, OneDrive等)
- 授業時にプリントや電子黒板にそれらを提示

例2) チャットや共同編集で生徒同士の対話を促す

- PowerPoint, OneNoteの共同編集機能やTeams, zoomのチャット機能を利用して，離れた席でも交流
- 各班の協議内容を電子黒板に映し出し，全体で交流
 - *メリット
 - 班別意見の全体交流が容易になり，考えが広がる
 - 班別意見をデータで保存し，OneDrive等で共有することで，家庭学習での振り返りでも活用可能



③ 「深い学び」における活用

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科の「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりする学び

例) ICTを利用して、「思考ツール」を標準装備にする

- 「比較する」「分類する」「多面的に見る」「関連付ける」「構造化する」「評価する」等の思考スキルを身に付けさせるため，課題に応じて必要なツールを取り出し，生徒が自在に活用



I 予習 (家庭学習)

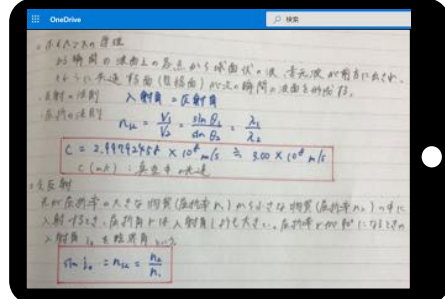
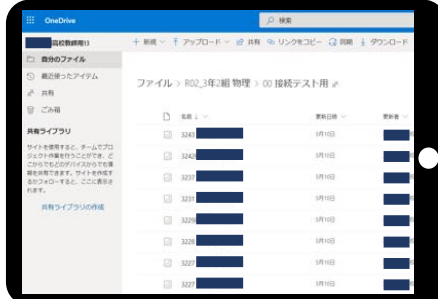
i) 予習 & 提出

生徒が予習ノート等を写真で提出し、教師が生徒の予習状況を把握



1. 生徒は、スマホ等で予習ノート等を撮影してFormsで提出

2. 教師は、OneDrive内の提出フォルダで、生徒の提出状況と内容を把握することで、理解状況等を踏まえた授業を構成



ファイルの提出については、Formsを使用せずに、OneDriveのクラス共有フォルダに直接保存することや、ファイル共有機能で教師とファイルを共有すること等も可

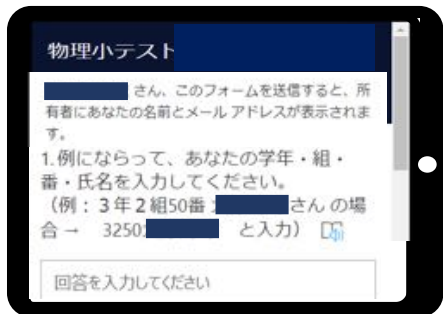
ii) 予習 & 小テスト

生徒が理解状況を測るテストに取り組み、教師が把握して授業に活用



1. 生徒は、教科書等での予習後、スマホ等でFormsの小テストに解答

2. 教師は、自動採点された結果を把握



iii) 予習 & 学習課題

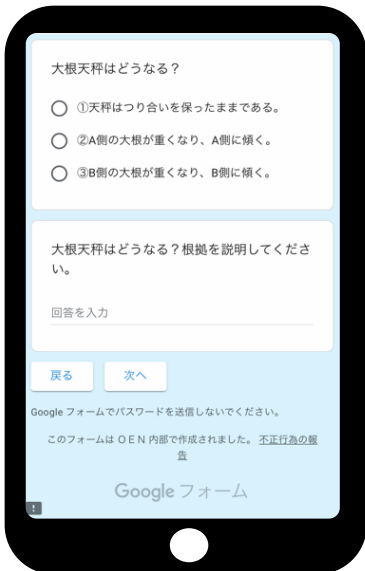
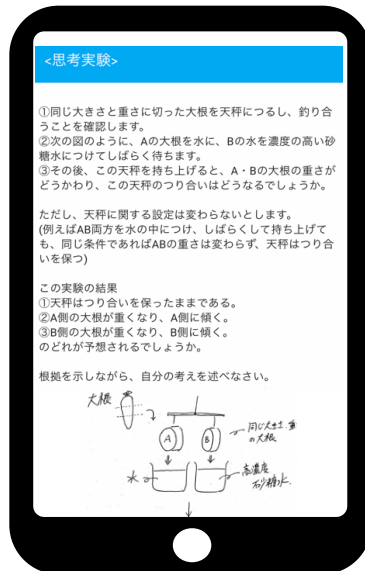
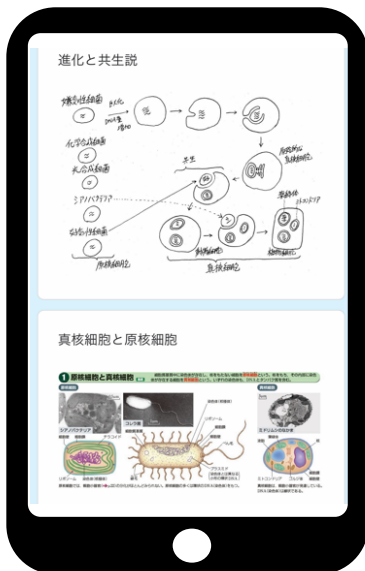
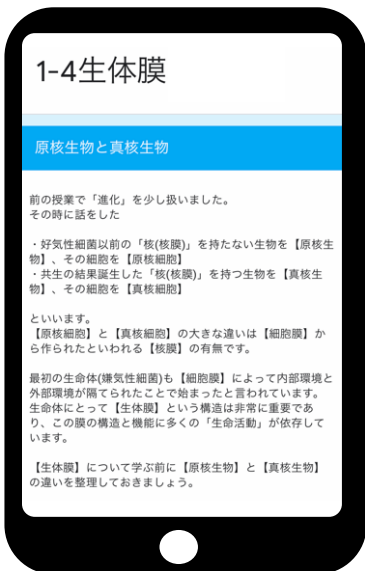
生徒が学習課題に家庭で取り組み、教師が把握して授業に活用



1. 教師は、Googleフォーム等で必要な知識と学習課題をまとめた教材を作成。生徒はそれを基に、知識を習得

2. 生徒は、教材の中の学習課題について考察

3. 生徒は、考えの根拠や理由等も入力して解答を送信



II 授業（学校）

i) オンライン付箋対話

タブレットで離れた席の生徒同士で共同作業（付箋でのKJ法等）



○ PowerPoint等を共有設定することで、複数人の同時編集やチャットが可能になり、付箋を用いた協議を実施できます

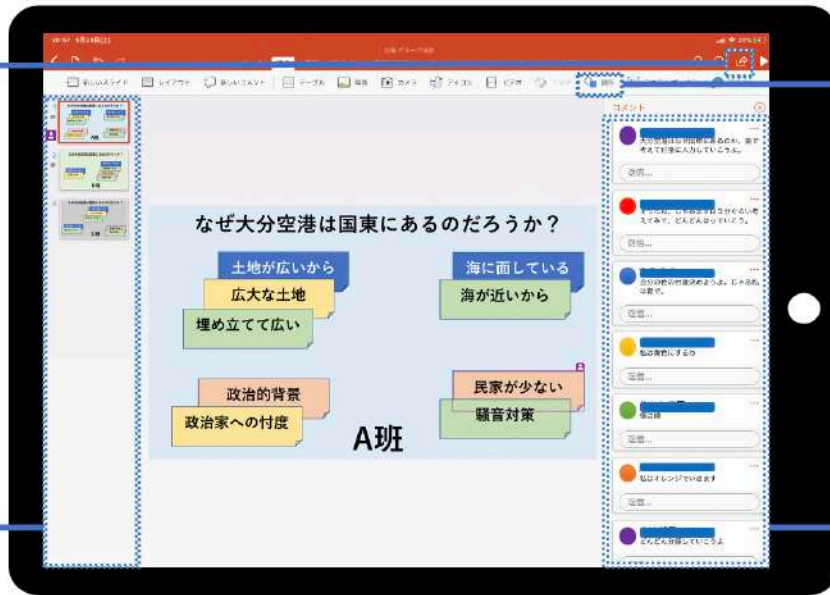
1. クラスで同時編集するため共有開始



2. 「図形」に自分の考えを入力し、付箋を作成



4. 他班の協議の様子がわかり、全体共有も可



3. 必要に応じて、コメント欄に会話を互いに入力



Microsoft 365版, Webブラウザ版で使用可（校内のiPad, Surface, 個人のスマホ等で可）

ii) オンライン班協議

「ブレイクアウトセッション」で全体説明と班協議を切り替え実施



○ 参加者を複数の小部屋に分ける「ブレイクアウトセッション」で遠隔指導の場面においても、班協議が円滑に実施できます

〔全体説明や意見共有〕
メインセッション

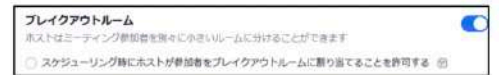


〔班協議〕
ブレイクアウトセッション



適宜切り替えて協議実施

1. 予めzoomのWebページで「ブレイクアウトルーム」を「有効」に設定



2. 小部屋への割り当て（自動、手動で設定）



iii) 電子版ポートフォリオ

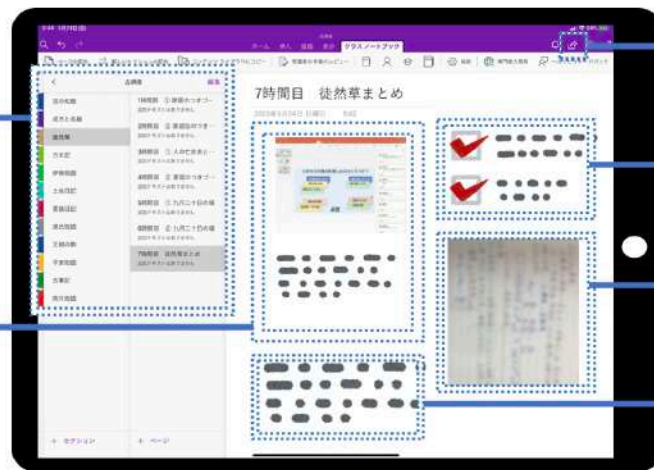
授業や家庭での学習履歴を電子化して整理したポートフォリオ



単元毎, 1時間毎にページを整理



調査結果, 他班の参考になる発表資料等を貼り付け



生徒がまとめたポートフォリオを教師と共有し、教師が評価や支援に活用

授業での班協議の内容をメモとして記録

授業ノート等を写真で取り込み、貼り付け

わかったこと, わからなかったこと等の振り返り記入

オンライン付箋対話及びオンライン班協議は、愛媛大学大学院理工学研究所HP「遠隔環境におけるグループワークの実践 (R2.4.24)」を基に作成

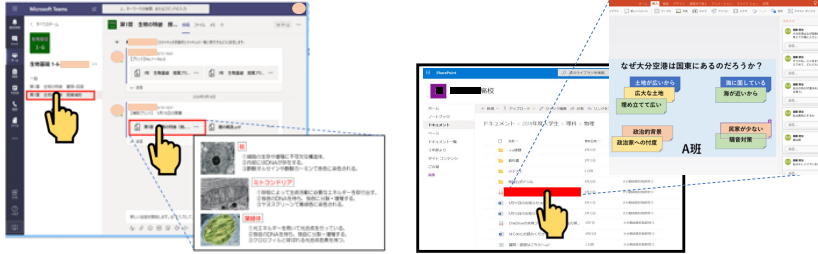
Ⅲ 復習（家庭学習）

i) 授業の振り返り

授業中の教師の板書や、生徒の協議の記録などを再確認

Teams 授業での板書内容やスライド資料で復習

SharePoint 各班の協議の記録等、学びの過程の振り返り



ii) 質問対応

チャット等を活用し、教師が生徒の質問に回答

Teams チャット機能等を使い、生徒が質問し教師が回答

※動画配信した場合、そのコメント欄を質問対応に活用可



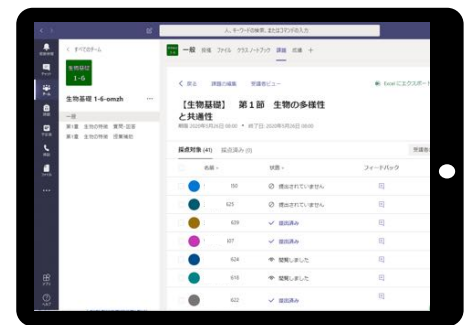
iii) 課題（確認テスト）

教師が課題や確認テストの連絡をして、生徒が解答し、自動採点された集計結果を、教師が授業や評価に活用

Teams 1. 教師は、課題連絡機能を使って課題の内容を指示

Forms 2. 生徒は、スマホ等で課題を解いて教師へ送信

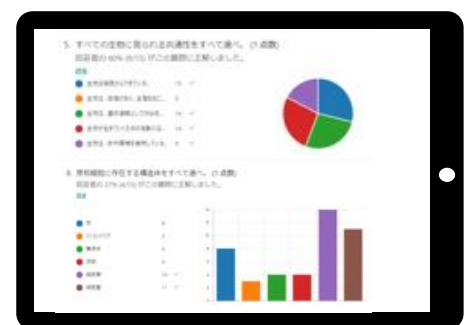
Teams 3. 教師は、生徒の課題提出の状況の一覧を把握



Forms 6. 教師は、生徒の解答の記述内容を、授業や評価へ活用

Teams 5. 生徒は、スマホ等で解説を見て振り返り

Forms 4. 教師は、生徒の答案を把握して分析



※テストの解説動画等を作成し、リンクを貼ることも可

授業改善参考資料

Microsoft 365 等による学習展開例は、以下の先生方の実践を基にまとめました。

- | | | |
|----------|-------|------|
| 大分鶴崎高等学校 | 清水 美記 | 主幹教諭 |
| 大分舞鶴高等学校 | 菅 淳司 | 指導教諭 |
| | 池 恩燮 | 教諭 |
| 大分豊府高等学校 | 山口 智司 | 教諭 |

各先生方の詳細な実践は、右記の「大分県立高等学校 ICT活用授業実践事例集」に掲載しています

○ 令和2年度県立高等学校授業改善実施要領

<http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/02jyugyoukaizenn.html>



○ 大分県立高等学校ICT活用授業実践事例集

<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/ictictictict.html>



○ 分散登校時における授業づくりハンドブック

<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/bunnsanhandbook.html>

